

その2

ママと画家

きく人

向井修二

〈画家〉

★左・ノブクラブのママ 中央・ドガのママ



今回は、神戸でも近頃話題になっているスナックバーの二人のママに出席してもらった。

「ドガ」のママ、矢原さんは昨年夏、四カ月にわたってブラリ南太平洋諸島を一人歩きしたなかなかの面白い女性。自分の生活を最高に楽しんでいる感じが気持ちいい。近頃めつきりきれいになったとはお客様の評である。「ノブクラブ」のノブちゃんは、一昨年七カ月ほど「イレブンPM」などで私達におなじみだった女性。今、愛に対して結婚に対して悩んでいるらしく、目下恋愛中？の様子。明朗で可愛らしさが残っている女性である。若くて素人くささがある、ママさんらしくないママ。いつまでもそうであるように「カンバイ」。

★二人共なかなかおしゃれですね。

ノブ そりゃ、神戸っ子ですもの。神戸っ子イコールおしゃれ上手ということだものね。

★といたいが、神戸に住んでいる人で、そんなにおしゃれな人は大していませんよ。おしゃれな子が神戸の街のもつ雰囲気と興味をもって寄ってくるんじゃないかな。

ボクの嫌いなタイプで、中年女で個性のないのがたくさんいるけど、なりたくないタイプでありますか？
ドガ いやな意味で女性らしい女性。

ノブ ぬかみそくさい女性。

★それでは結婚についてお聞かせ願いたい。

ノブ ノブはすごく結婚したい。でもね、三年したらこの

道絶対やめられないと思うの。一年か二年でバツと結婚して、もしそれがだめならずっと続けていきたいわ。平凡だけど結婚にかけてるの。でも私は結婚は二人だけの問題でないと思えるの近頃……

★うそそう、結婚は二人だけの問題であるべきだよ。

ノブ 私はそうは思わない。ノブはそんな勇気のないノブはそういう時期なのよ。大体平均して十九才から二十四才までが一番結婚したい年合じゃないかしら。二十五才を過ぎて生活力さえあれば結婚をあまり考えなくなるわ。

★女は生活力がなければ単なる商品だし、ただ家にいてお茶やお花を習って洋裁学校に行き、チャラチャラ着飾っていることで貴重な時間を費していると思うけれど、あなたもそんな過程を経たの？

ドカ 全然そんなの経てなかったし関係ない(笑)自分のやりたいことを出来るだけやってきたつもり。

★ところで、職業感って？

ドカ 最近私は水商売が男性の職業に変わりつつあるように思えるの。とくに神戸なんかでは、バーテンさんの魅力とお店の個性がつかっている場合が多いんじゃないかしら。

★そういえば、ドカの人は口が悪いネ(笑)でも神戸にはそんな店が多いし、家庭的ではあるけど……。

自分がかんな店をやってみたく、こんな店があったらいいのというものはない？

ドカ 徹底してフォーマルか、徹底して可愛らしいお店があったらいいと思う。神戸には中途半端な店が多いと思うわ。

★本当に徹底してフォーマルで、そこへ行くには少し無理をしてもいいような感じの店はないね。一軒ぐらいあってもいいと思う。全体に個性が無さすぎるのじゃないかな。わざわざその店に飲みに行きたいと思う店が少ないなあ。いずれにしても夜の神戸は昼の神戸にくらべてあまり魅力がないネ。

最近海外旅行をしたそうだけれど、楽しかった？

ドカ 一人で南太平洋諸島を廻ったんだけど、とにかく砂が真白で海がすばらしくきれいだった。タヒチ

は思っていたよりきれいじゃなかったけれど、でもハーフの女の子がみんなきれいだったわ。一番印象に残ったのはアメリカンサモア。ちょっと田舎へ行くとかバタババ(ナワのこしまき)なんかをまいて素足で歩いているし、そんなのがめずらしかった。

★最初からそういう素材なところを選んだの？

ドカ こんな商売をしていると、全然関係のない所へ行つて一、二カ月違った生活をするのは必要だと思わ。そういうのはぜい沢といわれるけれど、私はそのために仕事をしているみたい……。

ノブ 他に何か印象に残ったことあった？

ドカ ボラボラの海岸で寝そべっていたら、四・五人の土人がめずらしそうに取り囲んで、白人でもないし黒人でもない、いったい何ものだろうというわけネ。私がニコッと笑うと、その中の一人が近寄ってきて指でチョコッと肌をさわるの(笑)まるで怪物でも見ているような目附をして(笑)

それからサイパン島では、車が木にぶつかるとけりゃ。そうすると日本人の感覚では車の方をどけるじゃない。だけど木の方を一生懸命のこぎりで倒してその上を行くの。感覚がまるで違う(笑)もう一度行くのだったらボラボラ位ネ。でもアフリカにも一度行ってみたいわ。

★ノブちゃんは「イレブンPM」に出てただけとおもしろかった？

ノブ 大人の話がいつも聞けた感じだし、中継ではいろいろな所へ連れて行ってもらって、ちょっぴりスターのような気分も味わえたわ。

★そりゃ、きしょくよかったネ。

最後に、お店でエッチな話をする人が多いと思うけれど、エッチな話にはタイミングがすごく必要だと思うし、もっとしやれた感じに話したいネ。そんな話のネタ知ってる？

ノブ 好き好き知ってる。

ドカ あるある。

△注 この話題あまりたくさん出すと、到底掲載すること不可能のため省略いたしました。残念！

アイ・ラヴ・ユー……きれいな言葉。これがアイ・ラヴ・ユー……となるとすこし水くさい。そういうわけで映画はとくにこのアイ・ラヴ・ユーの言葉を聞くために映画館に行く。映画はあれは本当の人間が演じているのだけれども「演じている」のであって本当ではないからこそ見に行くのであって、あれが本当だったら、いったい誰がゼニを出してまで人のラヴ・シーンなんか見たがるであろう。それでリズとバートンのものすごいラヴ・シーン映画なんかをうれしげに見つめるお人はよほどの善人である。

そこで映画はサイレント時代のその昔からえんえんとそのラヴ映画をはてしなく製作し、たんまりとお金をもうけたのであるが、それでもやっぱりそのラヴ映画のあまりの美しさにすっかり見とれ惚れこみ感激しつくした名作というものも少なくはない。

「第七天国」という映画はサイレントのときとトーキーになってからとこれは二度も映画化されたラヴ映画であるが、どぶさらいのしがない労働者のシコという若者と

みなしごのよるべなき少女ディエンスのこの二人が恋しい、ついに二人はそのシコの七階のぼろ下宿屋のその一番上の七階目の天井裏の部屋であい抱き接吻する。二人はここできなにか愛の囁きをかかわねばならないのであったが胸がいっぱいのうえに生れてこのかたラヴ・シーンなどというものの経験のなかったこの二人はその愛の言葉にハタとつまつた。そこでシコがやつと思いきって囁いたその愛の言葉というのが「シコ」と自分を指さし「ディエンス」と抱いた彼女の名を呼び、そして小さな天井裏の部屋を見廻して「天国」といった。すると女はそれをとっても喜こんで、もう一度おっしやってくださいたのむ。すると男はとくになつて「シコ、ディエンス、天国」。彼女うつとりとして、もう一度……そして彼がまた「シコ、ディエンス、天国」七階の天井裏のその小さな窓からは夜空のきらめく星がまたたいて見えた。これをサイレントではチャールズ・ファールとジャネット・ジイノアが演じ、トーキーではジミィ・ステュアートとシモーン・シモンが演じたのであった。

〈19〉

相——淀川長治〈映画評論家〉



CINEMA

映画に見る愛の時代



最近ではその愛は「禁じられた情事の森」や「女狐」や、このあいだのジアンヌ・モローの「マドモアゼル」みたいな描き方になって「愛」の世界もえらくゆがんでしまったとあきれなげられるおひとは幸福か馬鹿かのどちらかで、「第七天国」の「シコ、ディエンス、天国」の夢はやがてこの世の現実にはききもどされて「マドモアゼル」にその本体をさらけさせられてしまう。「禁じられた情事の森」は、男と男の愛慾を覗き、「女狐」は女と女の愛慾を覗く。けしからんことであるが、人間は動物であってまた動物ではなく、アイ・ラヴ・ユーも今日ばかり形にまで変化したのであったのか……とさとするお人はすこし幼なごころのお人であって百年千年の昔から人間というものは「シコ、ディエンス、天国」の単純さをあこがれつつも、このもつれゆがんだ複数の愛の流れの洪水のなかでは、とくに何かの本物の愛をつかもうとする。本物の愛とはいったいなになのであろう。そこに映画もやっきとなつていろいろな映画を製作し、小説も詩も絵画も音楽も舞踊もその本物のラヴを追う。

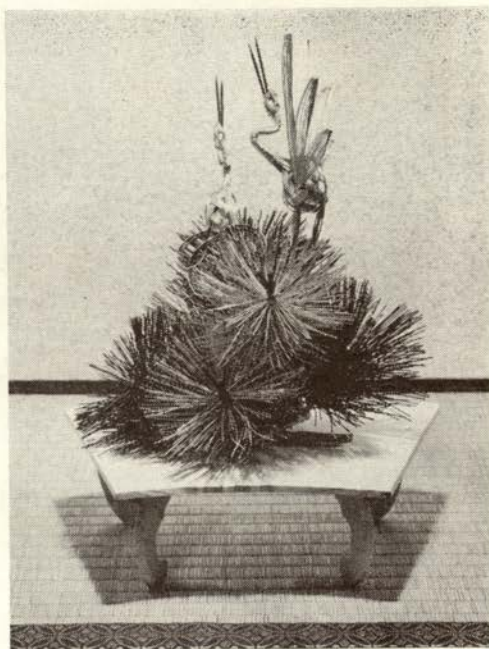
そうなると「シベールの日曜日」や「突然炎のごとく」のように、三十歳の青年と十三歳の女の子の恋や、二人の男が一人の女を熱愛し、その一人が彼女と結婚し夫婦となったあとで、その妻たる女が良人の目前でもう一人の男と心中をして、その死せる二人を見つめた彼女の良人が、ああこの二人を一緒にしてやるべきであったと涙をにじませるような……そんな映画にその「愛」はその「愛」の描き方は這入りこんでゆく。

けれどもクロード・ルルーシュ監督の「男と女」や最近のスウェーデン映画の心中悲恋の「みじかくも美しく燃え」などを御覧になるとアイ・ラヴ・ユーは冬の風を聞きながら暖かい部屋の中で美しいメロディのレコードをかけそれを聞く楽しみ、そんなのがやっぱいいというわけで、あの「哀愁」の蛍の光のメロディをキャンドル・クラブで二人が踊りながら聞き、そして愛を囁く……やっぱあれがいいわ……と観客はいまも健康である。

呉那陳磯
みよこや

神戸店大
電話神戸③三三八八番(代) 前
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪(361)九五八四番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路②一二二一番

幸せな二人の
えにしを結ぶ結納儀式用品



合資会社 * 創業 35 周年

遠藤福寿堂

東店・神戸市生田区トアロード高架上	TEL (39) 1871(代表)
西店・神戸市長田区市電停菅原東入	TEL (55) 2251(代表)
神戸大丸百貨店地階	TEL (33) 8121
神戸十合百貨店地階	TEL (22) 4181
姫路やまとやしき百貨店三階	TEL 姫路(23) 1221
姫路山陽百貨店地階	TEL 姫路(23) 1231

神戸の気楽な雰囲気
楽しめます



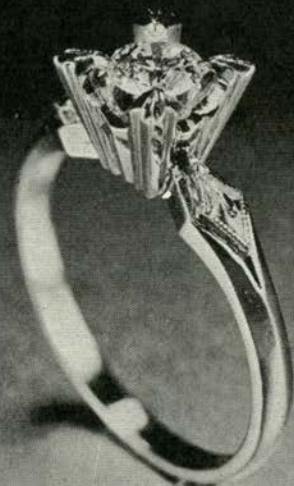
CLUB

落

清水 よし子

生田区下山手通2丁目 TEL 39-1515

Nakaniwa



宝石
貴金属
時計

仲庭

さんちかタウン (39) 4 5 9 3
梅田新道 堂ビル北(364)8121代表
桜 橋 毎日新聞社前(341)0412
新大阪ステーションストア
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

UNE DANDY CORNER

クネ ダンディコーナー
〈紳士服飾〉

★神戸店=元町通1丁目64

TEL (078) 33-2677

★東京店=東急百貨店日本橋店1階

TEL (03) 211-0511 内線318

東急百貨店本店6階(渋谷)

TEL (03) 462-3435

男の話

★DRINKING



「モダンジャズを聴かせてくれる、それだけでもこの店はボクらのお気に入りや」と常連紳士はのたまう。神戸で唯一のモダンジャズを聴かせてくれるスタンド「モンシェール・トン・トン」がそれ。生田新道の山側。東門筋から三軒目を二階に上る。ドアをあけるとシックな洋風スタイルの落ち着いたムード。マスターは寺本五郎さん。今度山本通4丁目に水交舎という会員制クラブを開いた。何よりもモダンジャズが好きというマスターの好みを反映して、良いジャケットを聴かせる。パーテンの山田さん、可愛い環さんと流さんが気楽なお相手をしてくれるし、船来さんのめずらしいブランドやスコッチが楽しめる。客層はサラリーマンが多い。ビール200円 ハイボール・フィーズ350円 午後6時～10時まで。

★SHOPPING

もう「クネ」のウィンドーは春ものが豊富に飾られ



ている。写真上は白地に紺とチリーブ라운の細いストライプがすっきりと入ったジャケット(8,800円)。ゴールドに紺元がチリーブ라운の新しい色をあつかったイタリー製のボロシャツ(6,500円)。ダイヤ柄の流下(900円)などシャープなタッチの品々だ。この他ペンギンの長袖縮セーターも各色そろっている(2,500円)。写真下は手織リッ



ードの替え上着は、アイボリーにグレーの春のムード(16,500円)ダークグリーン・ジャークスキンの替えズボン(4,800円)西ドイツ製ネクタイ(4,200円)それにベルトレスが布地風で、いろんな種類がそろっている。

ダンディ訪問 ★池畑廣士郎氏

元町で、貿易会社を甲南大学陸上部時代の先輩と二人で経営している長身のダンディ・池畑廣士郎氏(25才)におしやれについて伺ってみた。彼のおしやれポイントは「仕事の時や、改まらねばならない時以外はなるべく背広を脱いで、セーターのラフな格好でありたい」ということだが、この日の白地に細い赤の格子のワイシャツ、黒のVネックセーター、チャコールグレーのスボンにスエードのジャンパーはピッタリだった。好みの色は、ブルー、チャコールグレー、黒、濃紺で全然だめなのが茶系統、従ってスーツも全てダーク系のものが多いそうだ。仕事の関係で、年に数回海外のあちこちに出る彼は、神戸の町を「仕事をする上にも、レジャーを楽しむ上にも世界最高だと思う」という。最後におしやれ哲学について「おしやれというのは、その日の自分の気持ちに合ったものを選ぶことが大切だと思う。たとえば、澄みきった青空の下をスポーティーなスタイルで六甲辺りにドライブするなんていうのは最高だナァ」という返事。彼は今、青年の船に乗って東南アジアにいる。



神 戸 遊 戯 誌 52

★草分け的存在は直木重一郎氏

スキーが日本へ初めて紹介されたのは、明治四十四年（一九一一年）一月十二日、新潟県高田の第一三師団歩兵第五十八連隊の営庭で、十名の青年将校で編成されたスキー専修員が、オーストリアの武官テオドル・フォン・レルヒ少佐によってスキー術の指導を受けた時だった。このように日本のスキーは軍隊によって先鞭をつけられたわけだが、誕生したその年から、広く民間人にも普及されるようになったのは、当時の同師団長岡中将と堀内連隊長の見識によるもので、スキーは軍隊の専有にすべきではなく、広く雪国の住民に開放し普及させ、今日までの長い冬期間の退屈的な人心を一新すべきで



写真上・神鍋スキー場にはじめてできたワラ葺の茶店（昭5・2・23）

中・城崎に行った神戸スキークラブのメンバー（昭3・1・15）

下・訪日したシュナイダー氏（昭5・4・10）

左・昭和初期のアルペン・スキーの-bindウング

あるという両人の意図から、第二回目の講習会は、広く民間からも希望者を募集して、一般に普及させる機運と素地とを作ったのであった。

日本のスキー史は、大正の初めから同十二年までのスキー界を戦国時代とか群雄割拠時代とか呼んでいるが、群雄というのはいずれもレルヒ直伝の青年将校で、信越、東北、北海道の三地区に分かれてそれぞれ一本杖のアルペンスキー術で鼻高々の滑走ぶりを試みていた。このようなどき、大正五年に北大教授遠藤吉三郎氏がヨーロッパから帰国して、ノルウェーのスキー術を紹介するや、北大生を中心として札幌のスキー界は飛躍的な進歩をとげた。現在のような両杖を使用するようになったのもこ

れからであり、ジャンツエ（飛台）を作ってジャンプの練習すら行なうようになった。この影響で信越地方でも翌年は両杖を使用するようになった。やがて日本のスキー界もしだいに全国的なスキー人口を持つようになり、大正十二年二月に小樽市で第一回全日本スキー選手権大会が開かれることとなった。ついで十四年には全日本スキー連盟が創立され、全国から二十団体の参加をみたがこの中に神戸からは六甲スキー倶楽部が参加した。

以上がスキー界の初期の姿だが、神戸で現存の最も古いスキーヤーは六甲スキー倶楽部の創立以来のメンバーだった直木重一郎氏（神戸徒歩会、R・C・C ロッククライミングクラブ創立者、神戸スキークラブ会員、山岳連盟会員、木彫工芸教室主宰）である。彼は、大正十一年に大阪でスキー用具を買ったが、全部の代金は十二円だった。十二年ごろから本格的にスキーをやり出したが、当時は二・五十センチぐらいの長さの一本杖でクリスチャニヤとテレマークがはやっていたものだ。十五年に六甲スキー倶楽部のバッジ（スキーに羽根の生えたデザイン、K・S・Cの略称入り）を作ったのも彼だった。また、四十余年前から自費で六甲山（表裏）の地図を作成し六甲登山を普及したのも彼である。もともと彼より先にスキーを始めた先輩に春日英三氏（故人）がいたが、彼は関学卒後鹿島銀行へ勤務していたが、大正九年にいち早く越後の高田へ出掛けてスキー具を買ってきて始めていた。

十二年ごろの同倶楽部の会員数は三十五、六人だったが、十三年には八、九十人にふえた。ほとんどが男性で、年齢は二十代前後で、三十を越すと年長者にみられていた。職業は株屋、貿易業者、銀行員、三菱造船社員、専門校生（関学、神戸高商、三高）大学生（京大、関大、同志社大）などだったが、まだそのころはきまなかったスキー服がなく背広にズボン姿、靴もスキー靴をはいているのは二割ぐらいで、ほとんどは兵隊靴だった。みんな六甲山から下山すると、そのままスキーを肩にかついで誇ら

しげな顔で元ブラへ出かけ、喫茶店でスキーの話に花を咲かせたこともたびたびあった。当時たった一人若い女性のスキーヤーがいたが、彼女は大阪音楽学校の校長の娘で、スキー場では彼女のいるところへは男性スキーヤーがいとも集まり、全く女王蜂的な存在だった。スキーを楽しむよりも男性たちからのラブレターを読むのが楽しみではなからうかと思われるほど、いつもたくさんラブレターをもらっていた。また、同倶楽部員の一人に変わり者の加藤文太郎氏がいた。彼は「単独行」という有名な登山書を出版して有名になったが、登山のベテランだったが、スキーはあまりじょうずではなかった。だが山の天候をよく見ることと直滑降ですべるのに長じていて、下山する時のスキーだけはべら棒に早くて同行者をビックリさせた。彼は惜しくも大正十一年山で遭難して命を失った。

六甲スキー倶楽部はもちろん六甲山でのスキー練習がおもだったが、時には信州の赤倉や滋賀県の伊吹山、兵庫山下の鉢伏山、神鍋山、氷ノ山などへも出掛けたものだ。十三年に赤倉へ行った時は、半メーターほどの高さの雪で飛台を作り、それを飛び越える術を初めてレルヒ少佐に教えてもらったものだが、直接指導に当たってくれたのは高橋某という日本人だった。十五年以後は北大の名ジャンパーだった緒方直光、温光氏の兄弟に六甲山で大いに指導を受けた。二人とも神戸一中の卒業生で北大へはいつからスキーをやり出したものだが、神戸出身の大スキーヤーなどは当時としては珍しい存在だった。名前のとおり兩人ともまじめで珍しく温厚な性格の人だったが、ジャンプ競技では昭和五、六年ごろへかけて抜群の技りょうを示していた。第二次世界大戦でどちらかが戦死したそうだが、れい明期の神戸のスキー界にとってはこのうえもない功労者だった。なお、六甲スキー倶楽部のできたころと前後して姫路スキー倶楽部も生まれていた。

神戸うまいもん巡礼

No. 63

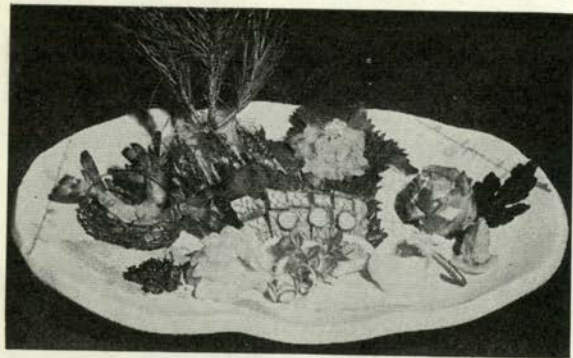
赤尾 兜子

日本料理の巻

神戸という街は、東西に帯のように長い。この地理的条件が東西の街の感じにかなりの差をつけている。たとえば三宮と福原、このふたつの街区間の客の交流はおなじひとつの街なのにあまりかんばしくない。東が優位にたつ。昨年十二月に開いた「雀」(生田区北長狭通二丁目、生田前商店街、国鉄高架から北一筋目を西入ル)は、福原から三宮へ進出した店である。焼とりで知られた福原店とちがって、こんどの新店は、卓袱(しっぽく)料理でアツピールを目ざしている。三階建。

女将の河村しづ子さんは、福原で知られた人。転向してトリで八年、しっぽく零年というところである。竹中郁さんの話によるとむかし、花隈に「宝屋」(たからや)というしっぽく料理専門の店があり、料理もよかったが、その値段も神戸の超一流だったらしい。いない。

しっぽくとは、明治生まれの人が食卓のことをしっぽく台というように、そのもととは中国風の食卓のこと、それへ出せる料理をしっぽく料理といい、長崎へ伝来、いまでも長崎の名物である。それが精進(しょうじん)料理のばあい「普茶」(ふちや)料理となる。中国物菜



上 大皿に盛った前菜のような刺身とつきだし。
中 雀の和風力ワンター。
下 雀のしっぽく料理。





カウンターを見てお好みの品を主人に注文して作ってもらう「すいきょう」。

料理の日本化したもの、それに洋風料理の手法もまじって、主客が一卓をかこんで、鳥獣魚介を材とした料理をつつく、まあ、そんなものである。

ところで、この店のそれは、ぐっと日本料理化しており、お惣菜料理どころか、ずっと豪華だ。

大皿に盛った刺身（えび、たい、ひらめ、はまち、いか）ついで中国料理の前菜のようにこれも大皿に盛りつけた豚の角煮、たこ、鯛の子、いかのうに焼、ごりなどが出て、土鍋の茶わんむしというぐあい。これをとりあつて食べるのだが、しごく魚の鮮度がいい。果物をつけて三品で一人前一五〇〇円。これより値があがれば、品数が多くなる。茶懐石のかたぐるしさをきらう若い人たちにもなじんでもらうようにしたが、それはこれからの努力によるであらう。もうすこし中国、西洋ふうのものをあしらうべきではないかと、私は思う。

二、三階にある七つの新座敷でやる。酒は特級酒。

庶民的で、五百円あれば飲んで食える「すいきょう」（生田区北長狭通四高架下）が国鉄元町駅東口のすぐ西に



「すいきょう」で懸命に飲んで食べても一人1000円でたっぷり。

ある。「酔境」というのがほんらいの名だが、いまは右が通り名。神戸にこの道の親戚が多い滋賀県生まれのおやじさんがはじめてから十年。

十数人くらいが、腰かけにすわれる店。メニューはない。客の前のガラスケースに刺身用の季節魚いろいろ、カウンターに、いいだこの煮つけ、かき、鳥のキモなどが盛りあげてあって、それを注文すればいいのだ。ほかになべものもあり、一日、三、四十種の品数をそろえているから、口のかなりうるさい人には、その選択が楽しみというもの。

さしみは二八〇円。つきだし五〇円、なべもの三〇〇円、酒は一級酒で一〇〇円。

昼は毎日品ぶれがかわる刺身、天ぷらなどの一品と赤だし、つけものをつけた一三〇円の定食をやっている。たぶんどこにもないと主人が、実質をはこっているが、サラリーマンやBGでたいへんな混み方。表に行列していて、食べ終ると寸秒もすわっておれない。

*女ざかり

〈1〉

文・竹田洋太郎

木村君子さん

スペイン語に「ビローボ」という言葉がある。一口に言えば女性を賛美することだが、スペイン、中南米では独特の方法があつて「バラのように美しいあなたを生んだお母さんに神のお恵みがあるように」などと、テレビもせずに女性に語りかけるのだ。もちろん通りすがりの女性にもこれをやるわけだが、日本人にはちょっとできない芸当である。

しかし私は一度、大つばらに女性を賛美してみたいとかねがね思っていた。近ごろオール読物などの雑誌に「なんとかなにべえと七人の女」といったグラフの特集をやっているが、一流の文士でなければ登場させてもらえない。だが、たまたま「神戸っ子」が何かを書けというので、この際日ごろの望みを果させてもらえると、女性賛美を綴ることにした。

とはいふものの、私のような好青年が、若い未婚の女性を賛美したりすると、結婚のための聞き合わせなどでご迷惑をかけるかもしれない。そこで私がひそかに好意をもっていて、思ひのたけを活字にしても、ほほえみを持って受け入れて下さるような女性に限ることにした。結果、やはり「女ざかり」の女性となったのである。女ざかりとは何歳から何歳までか。そんなことはどうでもよろしい。登場される女性をご覧になればナルホドと合点されるにちがいない。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

さて、第一回に登場願ったのは、木村君子さん。タコ焼きでは天下に有名な神戸「蛸の壺」の木村憲吾氏の奥さんである。結婚適齢期のお嬢さん、大学生でタコ焼き

の腕も学士なみになった息子さん、それに高校生と三児の母だ。

しかし私をはじめ、現在の場所とちがって国鉄元町駅を下った旧蛸の壺へ出入りしたころは、高校生の坊やがまだ小学生にもなっていないかった。いまブラジルで活躍している画家の若林和男君、そして悪友ナンバーワンの鴨居玲君などと、タコ焼きで一杯やろうと、いつのまにかミコシをすえたのがこの店だった。

タコ焼きの焼ける香り、ギョウザの香り、そして熱燗の立杭焼の徳利のぬくみ。その中で芸術論（A）文学論（B）文化論（C）からYにいたるまで、議論をたたかわし、最後に「ああ、お金がほしいな」とつぶやき、寒風吹きすさぶ元町駅のプラットホームから帰っていった「青春後期」はこの蛸の壺にあった。

そのころの奥さんはもちろん今より若かったはずであるが、思い出そうとしても、そのイメージが浮んでこない。先日もここで酒を飲みながら考えたが、なぜだかわからない。強いて想像すると、こうである。

われわれの同時代に属する君子さんは、北京で新婚生活を送り（そこで中国の家庭料理であるギョウザその他のウデを磨いたのだが）引揚げてきて生活と闘い、子供を育てねばならなかった。つまり戦後のその時代の女性として「雄々しく」生きていたのである。

そして、いま、子供さんも成長し、店も発展し、その店の中心として存在するようになると、女性としての輝きが一段と増し、過去のイメージをも圧倒する美しさを備えたためではないか。

しかし、やはり君子さんの変らないものがある。私たちに金がない時、議論の果てにケンカがおつ始まったとき、困ったような表情をひたいに見せ、しかも目と口もとは相変らずハーフ・スマイルといった顔で温かく私たちを見守っていてくれた、あの姿である。

私個人についていえば、失恋した時のヤケ酒も、いまの女房と結婚する約束をした夜の祝い酒も、はじめての子供をはじめて神戸に抱いてきた夜の酒も、なにもかも知っていて、なにもいわないで温めてくれたのが君子さんだ。カトリックで告解を聴く神父さんのような役割りも果してくれた。

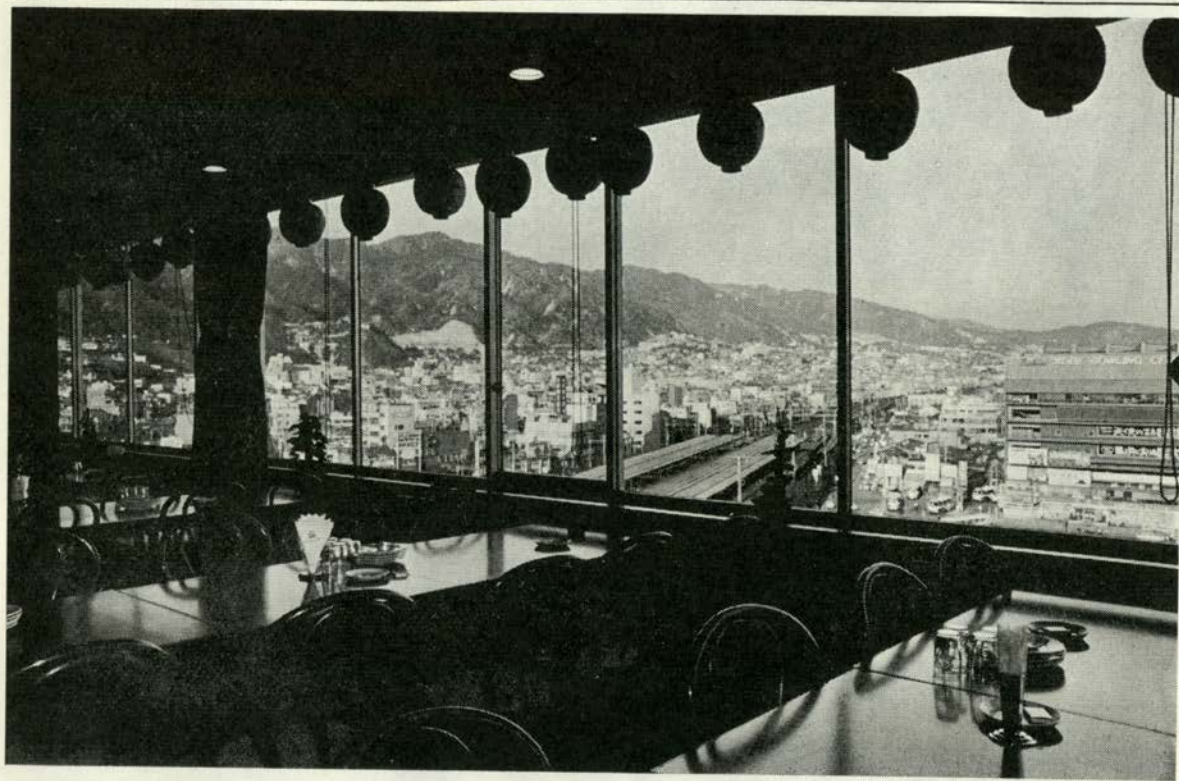
そしていま、いい趣味の和服をカッポウ着に包んで、そこからこぼれる女ざかりの魅力を、静かに私たちに見せるともなく、見せぬともなく……。そして夫婦のイキの合った店の切りまわし（これはつけ加えないと、ご主人のウラミが恐しい）をながめながら飲む酒はひとしうまいのである。

女ざかり、といっても私の好みからいえば「かわいい」感じを持つ人でなければならぬ。よその奥さんに「かわいい感じ」なんていうと問題になりそうだが、君子さんを見る男性なら、私のこの気持はわかっていただけるだろう。ぜひこの店で奥さんに会っていただきたい。



▶たこつぼの店でたこ焼を焼くにこやかな木村君子さん

☆☆☆☆☆ サントリー《純生》でスコール!! ☆☆☆☆☆



スカイサントリー・ヴァイキングコーナーから眺めた神戸の街

飲みほうだい (サントリー純生ビール) + 食べほうだい! <北欧風ヴァイキング料理> 1,200円<飲食税120円別>



なごやかな
ムード
すばらしい
眺望!

ビヤレストラン

スカイサントリー

三宮交通センタービル9階 TEL 333705~6

こんにちはノブです**

アナタノクラブ

アナタのいこいの場


〈ノブ*クラブ〉



"MY PACE IN PLAIN WAY"

〈ノブ*クラブ〉は、洋酒とお食事のクラブです

営業時間PM 5:00 ~ AM 2:00

 **Nobu*Club**

ノブ*クラブ(三輪ノブ映)=ノブ興業株式会社チェーン
神戸市生田区北長狭通り1丁目41 生田新道

〈チェリービル3F〉TEL <39> 2173
姉妹店 お茶漬の店*宮城*同様可愛がって下さいませ



OCB 加盟店

年中無休

坂上 太佳子

神戸市生田区中山手通1丁目110

PHONE <33> 5 5 4 3・7 8 3 1

setsu

ご家庭の雰囲気
楽しめる
あなたのスタンド



スタンド

勢津



生田東門筋
ゼウス街
TEL <39>0516



スタンド 和



生田区下山手通1丁目50
(生田筋 新世紀東)
TEL (33)6385・7425